

---

# 飲める醤油

登場人物

英	ハナブサ	スミス	スミス	横橋	ヨコハシ	佐山	サヤマ	田畠	タバタケ	奥寺	オクデラ	桜子	サクラコ	浩二	コウジ	醤太	ショウタ	
																長女	次男	長男

ショウタが中央に立っている。

醤太 人生は生まれるところから始まって死ぬところで終わるけど、物語はどこからでも始まって、どこで終わることができる。俺は東京でそこそこ売れない役者をやっていたんだけど、とても気持ちのいい風が吹いていた春のある日に、親父がいきなり病気で死んで、俺は田舎に帰つて来ることになった。あ、そそこ売れないと云うのは、たまには仕事がある有名ではない役者ということで、具体的に言うと、日栄洋祐くらいのレベルなんだけど、まあ知らないよね、日栄洋祐。俺は好きだけどね、日栄洋祐。違う違う、日栄洋祐の話がしたいんじやなかつた。で、なんで田舎に帰ることになつたのかというと、親父は江戸時代から代々続いている醤油醸造工場の14代目社長で、俺たち兄弟の誰かが15代目を継ぐ必要があつたからだ。人生は生まれるところから始まって死ぬところで終わるけど、物語はどこからでも始まつて、どこで終わることができる。というわけで、この話は誰が継ぐのかモメにモメるけど最終的に家族の絆が深まるはあとう みんぐスト リー ではなく、そんな感じで俺が会社を継ぐことになつたその1週間後から始まる。

いつの間にかオクデラとタバタケがいる。

奥寺 じゃあ、説明しますね。

醤太 お願ひします。

ぼっちゃんはここに来るのも初めてですよね。

ええ。

うちの醤油はここで作っています。

ぼっちゃんも知ってる通りうちは江戸時代からずっと同じ製法を守り続けて  
ぼっちゃん。

はい?

どうかしましたか?ぼっちゃん。

その。ぼっちゃんっていうのが

あ、嫌ですか?って、嫌ですよね。

まあ。もうだいぶ大人ですし。

そうですよね、でも、ねえ。

ぼっちゃんが幼稚園に入る前は、毎日、社長が連れてこられてましたし。  
社員のみんなで育てたようなもんですから。

どうしてもつい、あの頃みたいにぼっちゃんって呼んじやいますよね。

そうよね。

俺が幼稚園に入る前から、この会社で働いてたわけないですよね?

醤太

奥寺

田畠

醤太

田畠

奥寺

醤太

奥寺

醤太

奥寺

田畠

奥寺

田畠

奥寺

醤太

田畠 どうしたんですか？ぼっちゃん。

だってあなたたちと知り合ったの先週ですよ？

奥寺 そうですね。

田畠 だからあなたたちは幼稚園に入る前の俺とか知らないじゃないですか。

奥寺 そうですね。

田畠 じゃあついぼっちゃんと呼んでしまうっていうのはおかしいですよね？

奥寺 でもあの頃は社員全員がぼっちゃんって呼んでたんですよ。

田畠 さつきからあの頃を見てきたみたいに言つてますけど、あの頃にあなたはまだこの世界に存在してないじゃないですか。

田畠 恐い話ですか？

田畠 恐い話ではないです、こわいなこわいな な んがやだな どが言つてないですよね？

奥寺 じゃあ、なんとお呼びすればいいですか？

田畠 え？

奥寺 ぼっちゃんとしか教えてもらつてないので。

田畠 嫌ならあの頃とは違う意呼び方をしたいので。

奥寺 何がいいですか？

醤太  
え？

奥寺  
何がいいですか？

奥寺  
社長？

奥寺  
社長って呼ばれたかつたんだ。

田畠  
醤太  
違うんです違うんです。

田畠  
醤太  
恥ずかしがらなくていいんですよ。

田畠  
醤太  
呼ばれたいわけじやないんですよ。

田畠  
醤太  
大丈夫大丈夫、CEOよりは恥ずかしくないです。

田畠  
奥寺  
そうですよ、社長。

田畠  
醤太  
違うんです。俺は、社長と呼ばれたくて、そうしたわけではなく、しかたなく、ちょうどいいの  
がないから、そう呼んでもらうことにしてたんです。

田畠  
醤太  
はあ。

田畠  
醤太  
本題に戻してもらえますか？

田畠  
醤太  
奥寺  
そうですね。えっと、ここに来るのは初めてで間違いないですよね。

田畠  
醤太  
はい。

田畠  
醤太  
奥寺  
うちの醤油はここで私、オクデラと。

田畠 私、タバタケが主に作っています。社長も知ってる通りうちは江戸時代からずっと同じ製法を守り続けていますし。企業秘密の製法なので、社内でも数名にしか伝えられておりません。今日はその製

法をお伝えするためにきていただきました。

奥寺 1回で覚えるのは無理だとは思いますが、少しづつ覚えていくっていただければと。  
醤太 はい。

奥寺 今日は、全体の流れだけ理解していただければと思っています。

醤太 わかりました。

田畠 じゃ座ってください。いきますね。

醤太 はい。

テ ブルの上から袋のようなものを手に取る。

田畠 これがAの粉です。

醤太 え、あ、はい。

田畠 これに水を入れてよく混ぜてから、こっちのBの粉を加えます。こうやってねればねるほど、すみません、ねるねるねるね作つてます？

2人 ねるねるねるね？

醤太 知らないっすか、そういうお菓子。

奥寺 今作っているのは醤油です。

醤太 そうですよね。それは知つてたんですけどね。江戸時代から守り続けた製法なんですね？  
奥寺 そうですよ。

醤太 Aの粉とかありましたかね、江戸時代。

田畠 あつたんじやないですか？

醤太 絶対なかつたですよ。AとかBとか呼んでるわけないし。

田畠 江戸時代見たことないですよ？

醤太 なんですか？

田畠 さつきから江戸時代を見てきたみたいに言つてますけど。江戸時代にはまだ生まれてなかつたで  
すよね？

醤太 そうですが。なんなんですか？Aの粉つて。

奥寺 Aの粉はAの粉です。

醤太 いやだから、Aの粉の原料はなんですか？

奥寺 もう教えちゃつていののかなあ。

田畠 いいんじゃないですか？社長ですし。

奥寺 醤太

奥寺 醤太

奥寺 醤太

奥寺 醤太

奥寺 醤太

田畠 醤太

奥寺 そうですか。

田畠 そうですよ。

奥寺 これはトッブシ クレット中のトッブシ クレットなんですが。

田畠 はい。

奥寺 Aの粉は。

田畠 はい。

奥寺 小声で 塩です。

田畠 塩かい。

田畠 なんかおかしいですか？

田畠 いやおかしくはないですね、塩入つてますね、醤油。

田畠 ですよね。

田畠 じゃあBの粉は。

田畠 Bの粉は。

田畠 はい。

田畠 小声で 塩です。

田畠 塩かい！今のところ塩水作っただけじゃないですか。

奥寺 醤太

田畠

で、これを火にかけて水分をとばします。それがこちらです。

と、新たな容器をショウタに見せた。

醤太  
田畠  
これ塩に戻つただけですよね。

田畠  
はい。そうですけど。

醤太  
田畠  
奥寺  
工程つてことですか。

奥寺  
Aの粉とBの粉は、全く同じ塩です。

醤太  
なにやつてんすか。なんの作業だつたんですか。

奥寺  
タバタケさん続きを。

醤太  
ちよつと。

奥寺  
あとでちゃんとお話ししますから。

醤太  
はあ。

田畠  
次にですね、こちらのCの豆を用意しまして。

醤太  
それたぶん大豆ですよね？

田畠  
これにもいろいろやることがあるんですが、いつたん飛ばしますね。あとDの小麦、さきほどの

粉などの材料をあちらの機械に入れまして。スイッチを入れます。あ、押してみます？

醤太  
え？

田畠  
押してもらいましょう。せつかくだし・

奥寺  
そうね。

田畠  
先に全部入れておきましたんで、どうぞ。

と、ショウタを巨大な機械のところに案内した。

醤太  
このボタンですか？

田畠  
はい、どうぞ。

ショウタはボタンを押した。

機械の起動する音がした。

奥寺  
よくできました。一

田畠  
できたねえ。すごいねえ。

あの頃のぼっちゃんじゃないんで、普通にできますよ。

醤太

奥寺 わかつてもらいましたか？

醤太 え？ なにをですか？

奥寺 江戸時代から代々受け継がれた製法はこの機械、14号が守ってあります。

醤太 なるほど。

奥寺 なので、私たちはAの粉とBの粉を混ぜたり、Cの豆の数を数えたり、Dの小麦でパンを焼いてみたりして時間をつぶしています。

醤太 え？

奥寺 クビですか？

醤太 え？

田畠 クビですよね。

いつも間にかコウジが舞台上にいて、語りだす。

浩二 僕は大学を卒業してから世界を放浪したあとに、ここで働き始めたことになつてているのだけど。

本当はこの世界を放浪なんてしていなかつた、だって英語とか喋れないし。パスポートすら持つていない。あと大学も卒業できていない。その5年間、僕の体はずつと日本の埼玉県のアパートの一室にいてゲームの中の世界を放浪していた。簡単にいうとネトゲ廃人だったのだけど、説明するのが面倒なので、

そのことは妹しか知らない。ある日、夢から覚めたような感じで突然ゲンに飽きて、セブテ夕を全て消去して、地元に戻り、実家の会社で働き始めた。親父も含めてみんな、俺が会社を継ぐつもりだと思つていたみたいだつたけど、大変さもわかつてゐたし、そのつもりはなかつた。そういう時期がきたら、大きな企業にでも設備を売り払つて、そのあとの自分の人生のことはその時になつたら考えればいいと思つていた。また夢から覚めたかのように別の世界で新しい生活を始めるはずだつた。ところが兄貴が会社を継いでくれることになつて、俺はこの夢から覚めることなく、うちの会社で働き続けている。

ショウタ、オクデラ、タバタケはいなくなつていて、  
サヤマとヨコハシがいる。

ヨコハシは机に向かつて座つて事務仕事をしている。

佐山 なんか見えるんですか？

浩二 え？

佐山 そつち。

浩二 ああ。うん。

佐山 え？ なんか見えるんですか？

浩二 U.F.O.

え？

とか見えたらしいよね。

なんですかそれ。

横橋 やめてくださいよ。

浩一  
なんか見てたほうがいいのかなと思つてさ。

そういうのじゃないですよ。

浩一  
どういうのだつたの?

大丈夫ですか？ほ  
つとして。みたいなことですよ。

ほ  
つ  
と  
し  
て  
た  
?

横橋してましたよ。

浩二　まあそうか。や、考えたことない？こう、宇宙人とかに連れ去られて別の人生が始まるのも悪くないなあ、みたいなこと。

横橋 なんですかそれ、宇宙人なんか絶対いませんよ。

宇宙のどこかにはいるんじゃない？ 地球にこれるかどうかは別として。

横橋 いません。

佐山 夢がないねえ。

横橋 いないものはいないですから。

佐山 でも、UFOの目撃情報とかもあるわけだからさあ。

横橋 UFOって宇宙人の乗り物って意味じやないですから。

佐山 え？

横橋 未確認飛行物体っていう意味ですから。なんだかわかんない飛んでいる物、ってことでしかないんです。指をサヤマの額に だから仮に地球人がカラスを知らなかつたら、カラスもUFOですから。

佐山 あ、そう。

横橋 はい。あ、すみません。なんかあつくなっちゃつて。

佐山 別にいいんだけど。

横橋 とにかく宇宙人なんかいないということだけわかつていただければ。

佐山 あ、うん。わかったよ。で、なんでしたつけ？ぼっちゃん2。

浩二 ああ、や、親父が死んだらこの会社も終わると思ってたからさ。今もこうして働いてるのが不思

議でき。

佐山 なに言つてるんですか。

浩二 だから、宇宙人、じゃなくて、そうだな未来人とか

横橋  
未来人。

浩二  
あ、いないかな？

未来人は、いるでしょうね。

佐山 それはいるんだ。

横橋 時間は未来に向かって流れ続けているわけですから。

佐山 そうなんだ。

浩二 現代人でも知つてゐる人でもいいんだけどさ、とにかく、違う人生が始まる的なさ。

つまり、会社辞めたいってことですか？

浩二 そうわけでもないんだけど。

横橋 やめないでくださいよ。

浩二  
だから辞めたいわけじゃないんだよ。  
辞めたいわけじゃないけど、そういうこともあつても悪く

ないよなあ、みたいなこと、考えない？たまに。

あ、そのきっかけとして、なにか日常とは違うことが起こってほしいとか。

浩二 そう。

横橋 考えますね。

浩二  
だよね。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

## 飲める醤油（おためしサンプル）

---

2024年5月24日 初版発行

2025年11月20日 改訂 (ver.1.002)

著 者 関村俊介 © 2024年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-24-9529

---